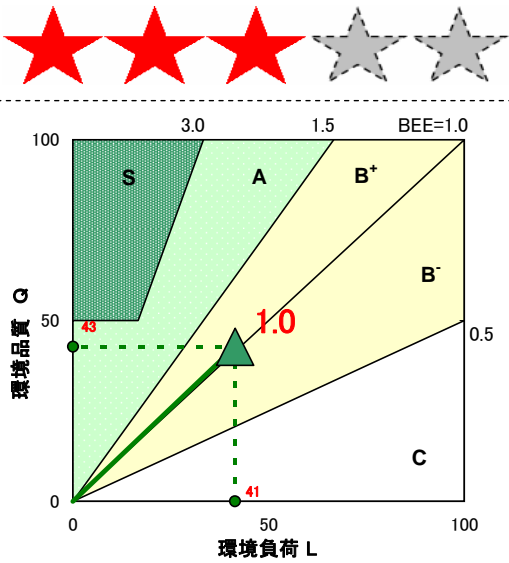


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称) ケーズデンキ菊陽店	階数	地上2F		
建設地	菊陽町大字津久礼字平ノ上66-1	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	250 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,015 時間/年		
建物用途	物販店, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2011年10月 予定	評価の実施日	2011年9月28日		
敷地面積	7,635 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	5,122 m <sup>2</sup>	確認日	2011年9月28日		
延床面積	9,704 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE=1.0

**BEE = 1.0**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	30以上	50以上
A	★★★★	大変良い	15以上30未満	—
E <sup>+</sup>	★★★	良い	10以上15未満	—
E <sup>-</sup>	★★	やや劣る	05以上10未満	—
C	★	劣る	05未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
3C%以下	☆☆☆☆☆
3C%超6C%以下	☆☆☆☆
6C%超8C%以下	☆☆☆
8C%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)




排出率

**77%**

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	92.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	70.5

評価点

**78**

■ 熊本県重点評価基準

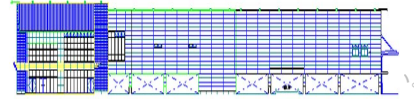
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケースデンキ菊陽店	階数	地上2F
建設地	菊陽町大字津久礼字平ノ上66-1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	250 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,015 時間/年
建物用途	物販店, 工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年10月 予定	評価の実施日	2011年9月28日
敷地面積	7,635 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	5,122 m <sup>2</sup>	確認日	2011年9月28日
延床面積	9,704 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 77%

③上記+②以外のオンサイト手法 77%

④上記+オフサイト手法 77%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.7

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.1

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 3.3

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 1.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.4

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.8

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 3.6

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 78

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 93

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 63

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 70

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 71

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

廃棄物、騒音、緑化などの地域環境に関わる重要事項は、地域との共生を実現するために、環境に細心の配慮を行っている。

### Q1 室内環境

利用者の室内空気質を健全に保つために、建築基準法規制対象外となる建築材料（F☆☆☆☆）のものを採用し、空気汚染を回避したり、非喫煙者がタバコの煙に曝されないようにするなど、十分な換気を行い空気室を向上させている。

### Q2 サービス性能

PHS網を採用し、通信手段の多様化を図り、自動販売機を設置するなど、利用者が長時間滞在しても快適に過ごせる。また、階高さを十分に設けたり出来るだけ動かさない壁を設けるなど、将来変更する場合、自由に形状変更できる。

### Q3 室外環境（敷地内）

植栽により、良好な景観を形成している。

### LR1 エネルギー

高効率の空調機器を採用したり、照明機器に調光制御を採用するなど、できるだけエネルギー量を削減している。

### LR2 資源・マテリアル

節水コマや、節水がたの便器を採用し、節水を心がけ、強度の高い躯体の材料を採用するなど、出来るだけ資源の使用量を減らしている。

### LR3 敷地外環境

十分な駐車スペースや、建物の出入りを円滑に出来るような設計をするなど、建物の運用時に発生する交通付加を抑制するための取組みを行っている。その他、建築物における光害対策として屋外照明器具、屋内照明器具の漏れ光や広告物等の照明対策、廃家電対応、修理事業の活性化、再生紙活用など行っている。

### その他

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
 (仮称)ケーズデンキ菊陽店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.36</b>					<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15					<b>2.6</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能		-	-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-					
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20					
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35					<b>2.2</b>
2.1 室温制御		<b>2.7</b>	0.50					
1 室温		3.0	0.44					
2 窓気密・気密制御		-	-					
3 外皮性能		2.0	0.21					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.35					
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20					
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30					
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.9</b>	0.25					<b>3.9</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.51					
1 昼光率		-	-					
2 方位別開口		-	-					
3 昼光利用設備		3.0	1.00					
3.2 グレア対策		-	-					
1 照度器具の配置		-	-					
2 昼光制御		-	-					
3 グレア対策		-	-					
3.3 照度		-	-					
3.4 照明制御	リレー制御(4回路用)、調光制御装置あり	<b>5.0</b>	0.49					
<b>4 空気環境</b>		<b>3.7</b>	0.25					<b>3.7</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50					
1 化学汚染物質	全てF4	4.0	1.00					
2 化学汚染物質		-	-					
3 化学汚染物質		-	-					
4 化学汚染物質		-	-					
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30					
1 換気量	必要換気量の1.4倍以上	5.0	0.50					
2 自然換気性能		-	-					
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50					
4 換気設備		-	-					
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御	店舗内(お客様)では全て禁煙、従業員用の喫煙箇所は喫煙室を設けている	5.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30					<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40					<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40					
1 広さ・収納性		-	-					
2 高度情報通信設備対応		-	-					
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		<b>4.3</b>	0.30					
1 広さ感・景観	天井高 CH=4500	5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	4%以上	5.0	0.33					
3 内装計画		3.0	0.33					
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	汚性の高い仕上材等を使用	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
3 維持管理機能		-	-					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.31					<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・排水=B、消化=C Eは不使用	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.2</b>	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備	非常用発電機の設置、地下空間の設置なし	3.4	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	PHSケーブルあり、地下空間の設置なし	4.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.29			<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.31			
1	階高のゆとり	物販=7.03m、工場=4.17m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.07%	5.0	0.40			
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.31			
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.5</b>	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		1.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.34			<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30			<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40			<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30			<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-			<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40			<b>3.4</b>
<b>1 建築物の熱負荷抑制</b>			<b>2.2</b>	0.18			<b>2.2</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.23			<b>3.0</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
<b>3 設備システムの高効率化</b>		調光設置、高効率空調機器の採用	<b>4.8</b>	0.35			<b>4.8</b>
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価) ERR=31.7%	4.8				
		集合住宅の評価					
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.23			<b>3.0</b>
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30			<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.15			<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		過半数以上に節水コマ及び自動水栓の設置の上 節水便器の採用	<b>4.0</b>	0.40			
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.63			<b>2.6</b>
2.1	材料使用量の削減	S400	4.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24			
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.2</b>	0.22			<b>3.2</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.32			
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.3</b>	0.68			
1	消火剤	ハロン消火剤の使用なし	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30			<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		高効率設備の導入	<b>3.9</b>	0.33			<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33			<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器の設置なし	<b>5.0</b>	0.25			
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50			
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.6</b>	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	駐輪場や駐車場搬入用の駐車場の駐車スペースの確保、 出入口が複数確保	5.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33			
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33			<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
<b>3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制			-			
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物、公害対策チェックリストの項目をほぼ満たしている	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称) ケーズデンキ菊陽店

■評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		77.7
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				92.7	0.40	37.08
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.2	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.2	0.09			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.21			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.8	0.31			
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数